

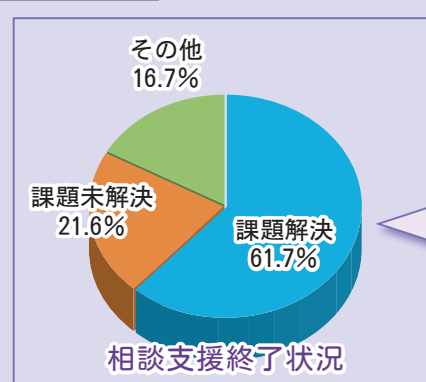
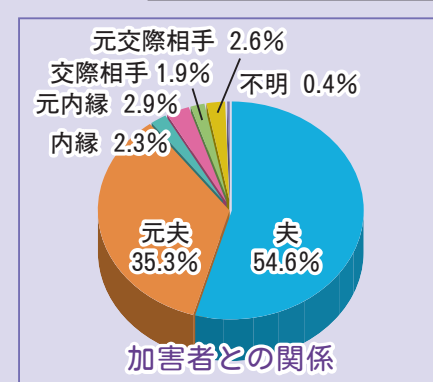
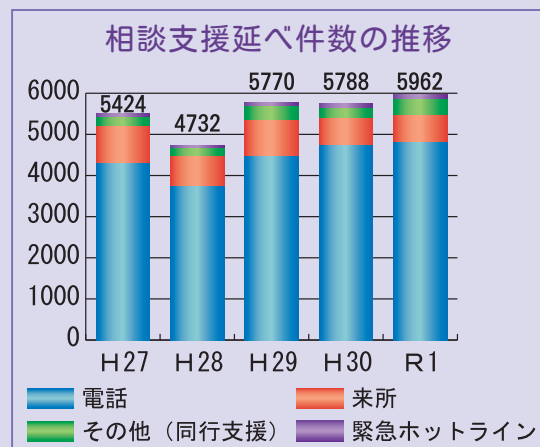
令和元年度 DV 相談・支援の状況

平成31年4月1日～令和2年3月31日

DVセンターでの相談支援延べ件数

- 相談件数：本人、親族、知人、関係機関等からの相談件数とセンターからかけた電話件数を計上
- 対象者：夫、元夫、内縁、元内縁、交際相手、元交際相手からの被害者

電話	4,794件
来所	668件
その他（同行支援等）	397件
緊急ホットライン	103件
合計	5,962件



主な内容は、相手との関係を整理できたものや、制度利用（保護命令や住民基本台帳事務における支援措置制度等の利用）です。

リーフレットが新しくなりました

DVセンターに相談された方のメッセージや、児童虐待との関連、センターでの支援や相談員が心にかけていることを掲載しています。各区役所等に置いてあります。お手にとってご覧ください。

パートナーとの関係に悩んでいらっしゃる方はもちろん、周りにそのような方がいらっしゃる場合などにも御活用ください。

関係機関の方で、リーフレットが必要な場合は、御一報ください。

京都市情報館でも内容を御確認いただけます。

<https://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000211942.html>



編集後記

編集作業を進めている今、世の中は新型コロナウイルス感染拡大のニュースでもちきりです。そのような中、DVの被害者が増加しているとも言われています。当センターはどんな状況においても、被害者の方が安全、安心に生活していけるために相談支援していきたいと考えています。（H）

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！



DVと児童虐待 子どもへの影響

東京都目黒区や千葉県野田市で悲惨な児童虐待死亡事件が発生し、大きな社会問題となりました。いずれの事件も刑事裁判の中で母親が父親からDVを受けていたことが明らかになり、DVと児童虐待の関連が改めて注目されています。

DV加害者は衝動的で、感情の抑制がきかず、些細なことでイライラして、突発的に暴力を振るうと思われています。しかし、DV加害者の中には、会社や地域では全く暴力を振るわず、温厚に見える人もいます。このような加害者の中には、計算高く理性的な判断の下で暴力を振るっており、DV被害者を支配し、コントロールするために暴力を用いていることがあります。このようなDVを受けた被害者は、DVは自身の責任と感じていることが多く、周囲に相談することができず社会的に孤立してしまいます。

児童虐待も子どもを支配し、コントロールするために、^{しつけ}躾として行われることがあります。このような虐待を受けた子どもは、親の思いに応えることが良いことだと思い、親から求められる無理難題に一生懸命取り組み、親から求められたことが出来なくて罰として虐待を受けても、親の言うとおりでできなかった自分が悪いからだと考えます。

これらのDV被害者や被虐待児童は、自分ができないことを責めるため、自尊心や自己肯定感が低下し、助けを求めることや逃げることを選択肢を失うと同時に、精神のバランスを崩し神経症状や鬱症状が現れます。子どもへの影響はさらに深刻で、身体や心の傷のみならず、脳の発達にも影響を与えることが明らかになっています。

DVや児童虐待は被害者や被害児童の力で解決することは困難です。だからこそ、DV防止法や児童虐待防止法が定められており、必要な保護や支援が実施できるように法整備がなされています。また本年4月1日より改正された児童虐待防止法が施行され、^{しつけ}躾と称しての体罰も禁止されました。「もしかしてDV?」、「これって虐待?」と思われた方は専門機関に相談してみてください。

DVに関する京都市内の主な相談機関（相談は無料です。）

相談機関	内容	電話番号・時間	相談方法
京都市DV相談支援センター	・女性に対する配偶者・交際相手等からの暴力	075-874-4971 月曜～土曜日（祝日除く）9時～17時15分 075-874-7051 上記時間外【緊急ホットライン】	電話 ★面接
京都市男女共同参画センター（ウィングス京都）	・女性のさまざまな悩み（夫婦間の人間関係、性、健康、女性への暴力）	075-212-7830（電話相談専用） 月曜、木～土曜日（祝日除く）10時～17時 火曜（祝日除く）10時～20時 075-275-9933（面接予約専用）	電話 ★面接
	・男性のためのDV電話相談	075-277-1326 第2・第4火曜日（祝日除く）19時～20時30分	電話
その他	・DV、人権問題、心の悩みなど	https://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000264153.html	

★の付いている相談は予約が必要です。（この表の内容は変更されることがあります。）

子育てに関する京都市内の相談機関

内容	電話番号・QRコード等
子育ての悩みや児童虐待など	・児童相談所全国共通ダイヤル（24時間対応）189 ・京都市子ども虐待SOS専用電話（24時間対応）075-801-1919 ・京都市児童相談所（南区・伏見区以外の方）075-801-2929 ・京都市第二児童相談所（南区・伏見区の方）075-612-2727
	区役所・支所の子どもはぐくみ室へのお電話はこちら https://www.kyoto-kosodate.jp/center

※ひとりで悩まないでください。あなたの電話を待っています。

わたしらしく

京都市DV相談支援センターを利用された方々に、現在の思いや、今被害を受けておられる方へのメッセージを自由に書いていただきました。

Aさん（30歳代女性）

私は、結婚生活13年目にしようやく、悩みながらも、子ども達と一緒に家を出ることになりました。

夫との暮らしは、常に窮屈であり、結婚ってこんなに大変なのだろうか？と感じ、家庭で安らぐことがなかったように思います。特に辛いと思ったのは、夫から私に對しての「お前は何をやっても出来が悪い。」「100人中99人の人は、お前のことを頭が悪いと思って話をしている。」「その性格では、仕事したらすぐにクビになる。」「とにかく頭が悪すぎる。」と言う不適切な発言や容姿や体型のことを悪く言われたことです。数々の言動、頭を叩く、蹴る等の行為から、私は自信もなくなり、家庭の中でもビクビク過ごしていました。子どもの発熱や体調の管理ができないと、私にも子どもにも手を上げ、とても怖く、学校等の欠席では、私は子どもに、「お父さんには、休んだことは絶対に言わないでね。」と伝えていました。お酒もよく飲む夫は、機嫌が悪いと、悪ふざけをして子ども達を泣かせるなどしていたので、子ども達の学校帰宅時の第一声が、「お父さん、いつ帰ってくる？」でした。それを毎日聞くようになり、夫の顔色を見ながらの生活でした。今思えば、異常な家庭生活だったと思います。

私が、今回家を出ることができたのは、DVセンターの方や周囲の方々が協力して連携を取って計画をしてくださったからです。私一人では無理だったと思います。

家を出てからは、環境は変わりましたが、子ども達は、新しい生活にも慣れ、毎日のびのびと過ごし、よく笑っています。「お父さんと離れて良かった。」と言ってくれます。気持ちも明るくなったと思います。私自身も、精神的にととても楽になりました。

今現在も、DVセンターの担当の方に引き続きお世話になっています。いろいろな話を聞いてもらい、アドバイスをしてくださるのでとてもありがたく、感謝しています。

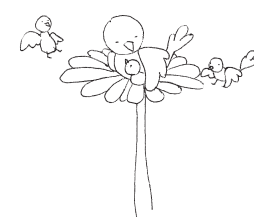


Bさん（30歳代女性）

私は、軽度の発達障害のある息子と暮らしていました。その頃出会った夫は、息子にも優しく、息子のことを大切にしてくれると思い、一緒になりました。しかし、夫と子（長女）を出産した途端、夫は長女を溺愛し、私と息子はおかしい、と悪意のある言葉を冗談ぼく言うようになりました。息子はそのことに気付いておらず、私も気付かない振りをし、夫から悪意のある言葉を言われないように夫の機嫌をとるようにしました。息子が成長し、学校などでトラブルを起こすようになると、夫は「息子のために入院させた方が良い」と言い、息子と離れて暮らすことになりました。私は、その後次女を出産し、長女と次女を見ながら、朝から晩まで、自営業を切り盛りしていましたが、夫は手伝うことなく好きなことをしていました。生活がままなくなると、夫からさらに容赦なく責められるようになり、恐怖のあまり、友人に助けを求めましたが、友人の前で、暴力を振るわれました。これ以上友人にも何かあってはいけないと思い、すがる思いで、息子を担当する児童相談所の職員に相談し、DVセンターにつなげてもらい、子ども達3人と一緒に保護していただくことができました。

その後、離婚調停が始まると、夫からは私が不貞をして逃げ回っていると噂を流されたりしました。弁護士やDVセンターの支えの中、3年という長い調停、裁判が終わり、離婚が成立し、私の心も報われました。

夫と生活していた当時、夫からの悪意のある言葉があったにもかかわらず、「私が我慢すれば…」と思い込んでいました。発達障害のある息子の気持ちも考えず、下の子ども達にもつらい思いをさせたことを反省すると同時に、助けを求めることができた勇気を糧に、今、子ども達との生活が幸せだと実感しています。当時、辛い気持ちを自分の見えない深いところにおいてしまい、我慢していれば幸せだという自分ができてしまっていたのだと思います。そして、自分もまた、子どもに我慢をさせていたのかもしれないかもしれません。自分も子ども達も笑顔で生きるために、つらい状況から抜け出すために、声を上げる勇気を持つことで前に進むことができるのだと思います。ありがとうございました。



Bさんの息子さん（高校生）

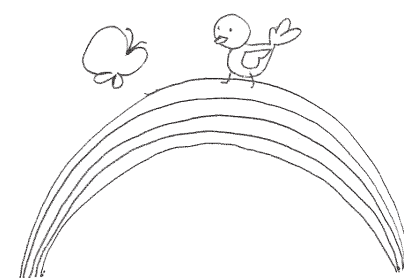
僕は小学校に入る前にお父さんを亡くした。僕には発達障害があり、いろいろなことがうまくいかず、父さんができたら変われるんじゃないかと思っていた。僕が小学生のころ、母さんから父さんを紹介された。

父さんは僕に優しく、いろんな話をしてくれた。

父さんが僕と母さんの家に来て暮らすようになり、妹が生まれた。妹はとてもかわいくて、僕は抱っこしたかったけれど、父さんから僕が抱っこしたら危ないと言われ、抱っこできなかったのを覚えている。その時は危ないからかぁと思ったけれど、中学生の頃に入院させられたりし、僕はいらんのやろうなと思っていたところ、もう一人妹が生まれたのを知った。ますます、そうなんだろうと思っていたところ、家に帰れることになった。でも、家の雰囲気がとても悪く、家に居づらかった。母さんは妹達を連れてずっと仕事をしているし、父さんに話しかけても、ちゃんと返事をしてもらえず外に出かけてしまう。そのことを母さんに言う「お父さんは忙しいから」と言うばかりで、次第に聞くことを止め、自分のしたいことを適当にしていた。ある日の朝、母さんから「逃げよう」と言われ何が何だかわからないなかで、母さんの友達の家へ数日泊まった後、母さんからDVの話聞かされた。信じられなかった。

母さんと妹たちと暮らす中で、どうして父さんがDVをしたのか確かめたくなり、父さんの暮らす家に戻った。父さんとの暮らしは、初めは楽しかったけれど、だんだんと父さんの態度が冷たくなった。父さんから紹介されたアルバイトの給料は、「家の電気代をお前が使っているから」と大半を取られた。母さんのところには僕が勝手に出たから戻れないと思い込み、自分で何とかしないといけないとアルバイトの交通費や飯代をやりくりしたが足りず、父さんの残した飯や腐りかけたものを食べていた。次第に、父さんは夜帰ってこなくなり、友達が心配して、飯を食わしてくれた。そんな生活をしていく中で何もかもがどうでも良くなり、薬を大量に飲んだけれど死ねなかった。これ以上父さんとの生活はしたくないと思い、友達と遊びに行く振りをして、家を出た。母さんのところに行ったら家に入れてもらえなかったら、児童相談所に行こうなどいろいろ考えながら何時間も歩いた。夜中だったが、母さんの家のインターホンが鳴らすと、変わらない母さんの声に緊張した。「オレ」と言うと、ドアを開け「おかえり」の母さんの声に本当にほっとした。その後、泣いてぐっすり寝た。

今、母さんと妹たちと笑って生活できるのは、変わらない母さんで居てくれるからやと思う。僕は父さんとの生活も母さんとの生活もどちらもみたから言える。



Bさんの娘さん（小学生）

今、わたしはしあわせに、くらしています。わたしがおとうさんのいやなことは、ママやママのともだちにたいして、しゅうだんでむしやわる口をいっていることで、きいて、とてもびっくりしました。なので、わたしはむしやわる口を言わないように、きをつけようと思いました。

おとうさんとくらしているときに、おとうさんだけ、じてんしゃにのって、わたしはのせてくれなくて、わたしだけ、走ってかえってきました。そのとき、とてもつらかったです。わたしのいやなきもちに、きづいてもらえなかったです。今は、いろんなことに、ちょうせんさせてくれるママとお兄ちゃんと妹といっしょでしあわせです。

